

地力の維持

ワラクサル®

おいしい

米づくりに…腐熟促進材



特許製品

■特長

圃場にいる土着菌の増繁殖を促し、その活性を最大限に引出します。
気候条件等の変化にも各ステージで安定した効果が得られます。

■効果

浮きわらの減少、有機酸やガス害の軽減

■使い方

<散布>

刈り取り後なるべく早めに散布してください。(雨上り、朝つゆのある時の散布がより効果的です)

<すきこみ>

- ①出来れば1ヶ月位放置した後すき込んでください。
- ②山間高冷地では出来るだけ早めにすき込んでください。
(雪どけ後のすき込みでも結構です)
- ③ワラのすき込みを例年される方は、ぜひおすすめします。

■使用量

10a / 20Kg (1袋)



▲無施用区

ワラクサル区(処理後8日)▲

(平成7年9月29日撮影 新潟県 吉川町)

本品は、腐熟促進材です。腐熟促進肥料ではありません。

お求めは

製造 香蘭産業株式会社
販売 丸善薬品産業株式会社
東京支店 03-3256-5561 福岡支店 092-281-6650
大阪本社 06-6206-5531 仙台営業所 022-222-2790
名古屋支店 052-561-0131 札幌営業所 011-261-9024

環境にやさしい おいしい米作り！

水田に利用した場合の特性

1 品質の向上

腐食や菌類の働きが活発となることにより、米の品質が高まり(デンプンの増加)食味がよくなります。死米、赤米、シイナ、白穂病の減少は等級の上昇に貢献します。

2 湧現象と秋落防止

水温の上昇に伴い、多く発生が見られる湧き現象の原因となる有毒ガスを吸着、固定し秋落ちの減少にもつながります。

特に山間地域に効果が有り最終的に増収につながります。

効果的な使い方

- ①ワラを土壤に還元する場合初年度は残株と根、2年目は $\frac{1}{3}$ 量を、3年目は $\frac{2}{3}$ 量と年毎に増量していく方法が一番安全でワラクサールの効果を十分発揮します。
- ②初年度ワラ全量を還元する場合は……………
 - (1)刈り取り直後ワラクサールをワラに良く付着させるだけ早くすき込んで下さい。
 - (2)耕起が楽で浮ワラが減少し、湧きを抑制します。
※尚、間断灌水等、障害防止に努めて下さい。
- ③転換畑利用の場合……………

畑→水稲→畑の場合収穫後の残量(有機物)は、ワラクサール散布後出来るだけ放置してからすき込んで下さい。

●注意 (本品は肥料や農薬ではありません、必ず有機物や土壤に混ぜて使用して下さい。)

★ワラやその他の有機物が乾燥している状態では効果が半減しますので、雨上りや朝露のある時など材料が十分に吸湿している状態でご使用下さい。

★水ヌレに注意の上封をよくして保管して下さい。長期間使用できます。

本品は有機物培地の酵母、乳酸菌製剤とキトサンを含む有機酸化合物で構成され工業所有権の保護をしています。個々の原料は食品、飼料の添加物ですが、本品を飼料に混ぜることは出来ません。通常使用ではまったく無害です。

稲・麦の生育を 安定させる生ワラ施用法

稲、麦の収穫後のワラの産生量は収量に均しいと云われています。全ワラのうち刈株と根の部分は30%、40%でワラに比べ50%位腐り易いと云われています。稲ワラと麦ワラを比べると麦ワラの方が分解しにくいリグニン質を多くもっているため稲ワラに比べて30%も腐りにくいのです。

稲、麦ワラを刈り取り直後に耕起し、すくとワラの細胞が生きており節間から不

定根が発生し分解を遅れさせることが判りました。

そこで刈り取り直後ワラが湿っている時に「ワラクサール」を全面に散布しワラになじませワラの炭水化物の分解を促進させ、ワラの細胞を死なせることです。そうして「ワラクサール」処理後期間において土壤にすき込むことがポイントです。例えばワラを刈り取り直後すき込んだ場合より8日間地表に放置してすき込んだ方が、ワラの消化率は稲で18%、麦で13%も早く腐ります。

ワラを土壤に還元する場合初年度は残株と根、2年目はワラの $\frac{1}{3}$ 量、3年目は $\frac{2}{3}$ 量

を毎年増量していく方法が一番安全ですが特に麦↓稲の場合、麦ワラの地表放置している期間が短いので注意が必要です。初年度にワラを全量還元する場合ワラに「ワラクサール」を良く付着させるだけで早くすき込んで下さい。そして間断灌水や長期中干によるコントロールを行い障害軽減に努めて下さい。毎年「ワラクサール」を連用することによりワラを受け入れる土壤微生物相が増し、ワラ類の消化率を高めることが出来ます。

◇そうとう土づくりを

心掛けて下さい……………◇